



サクセス・ソリストとオーケストラ  
 又は、室内オーケストラ（弦楽アンサンブル）  
 のためのコンサート

燕尾服でサクセスを

サクセス・ソリストとシンフォニック・オーケストラ

サクセスとオーケストラのための“クラシック”のレパートリーの中でもより重要で、偉大な作曲家の作品

- |               |                              |                           |
|---------------|------------------------------|---------------------------|
| ・ C. ドビュッシー   | Rapsodie : ラブソディ             | アルト・サクセスとオーケストラ           |
| ・ A. K. グラズノフ | サクソフォン協奏曲 変ホ長調               | op.109 サクセスと弦楽オーケストラ      |
| ・ D. ミヨー      | Scaramouche : スカラムーシュ        | アルト・サクセスとオーケストラ           |
| ・ J. イベール     | Concertino da camera : 室内協奏曲 | アルト・サクセスとオーケストラ           |
| ・ H. ヴィラ＝ロボス  | Fantasia : ファンタジア            | ソプラノ・サクセスと弦楽オーケストラ・3本のホルン |

ミヨーへのオマージュ

サクセスとオーケストラによるコンチェルト

- |          |                              |               |
|----------|------------------------------|---------------|
| ・ D. ミヨー | La création du monde : 世界の創造 | サクセスと室内オーケストラ |
|          | Caramel mou : やわらかいキャラメル     | ジャズ・オーケストラ    |

サクソフォン・カラーズ

サクセス・ソリストと弦楽オーケストラ

サクセスと弦楽オーケストラのためのレパートリー

- |              |                       |                        |
|--------------|-----------------------|------------------------|
| ・ D. ミヨー     | Scaramouche : スカラムーシュ | ソロ・サクセスと弦楽オーケストラのバージョン |
| ・ A. C. ジョピン | Alma do brasil        | ソロ・サクセスと弦楽オーケストラ       |
| ・ E. ジスモンチ   | Suite Circense        | ソロ・サクセスと弦楽オーケストラ       |
| ・ G. ソッリーマ   | Spasimo fragments     | ソロ・サクセスと弦楽オーケストラ       |
| ・ A. ピアソラ    | Tango suite           | ソロ・サクセスと弦楽オーケストラ       |
| ・ P. イトゥラルデ  | Suite Hellenique      | ソプラノ・サクセスと弦楽オーケストラ     |
| ・ H. ヴィラ＝ロボス | Pequena suite         | バリトン・サクセスと弦楽オーケストラ     |
| ・ F. P. テデスコ | Rocio                 | テナー・サクセスと弦楽オーケストラ      |
| ・ A. ココマツツィ  | Nonostante tutte      | テナー/アルト・サクセスと弦楽オーケストラ  |

## サクソ・イン・“ブルー”

### サクソ・ソリストとシンフォニック・オーケストラ

M. ナイマンのミニマリズムから、G. ソッリーマやG. マリガンに至る民族ブルースの雰囲気までに広がる作品で、サクソ・ソリストとオーケストラによるコンサートを

- |            |                      |                             |
|------------|----------------------|-----------------------------|
| ・ M. ナイマン  | Where the bee Dances | ソプラノ・サクソと弦楽オーケストラとブラス・セクション |
| ・ G. ソッリーマ | Aria in Rosso        | テナール・サクソと弦楽オーケストラとピアノ       |
| ・ G. マリガン  | K-4 Pacific          | バリトン・サクソとシンフォニック・オーケストラ     |
| ・ G. マリガン  | Entente              | バリトン・サクソとシンフォニック・オーケストラ     |
| ・ G. マリガン  | Etude for Franca     | バリトン・サクソとシンフォニック・オーケストラ     |

## シネ・サクソ

### サクソ・ソリストと弦楽オーケストラ

ステファノ・ナンニの才能と創造力により、サクソ・ソリストと弦楽オーケストラのためにアレンジされた E. モリコーネ、M. ナイマン、N. ロータ、J. ウィリアムスの作品

## サクソ・ソリストと指揮者という2つの立場でのマリオ・マルツィと 弦楽オーケストラとのコンサートのご提案

### 企 画 1

- |            |           |
|------------|-----------|
| マリオ・マルツィ   | サクソフォン・指揮 |
| シモーネ・ザンキーニ | アコーディオン   |
| パオロ・ザンニーニ  | ピアノ       |
| 弦楽オーケストラ   |           |

S. ザンキーニ、P. ザンニーニという卓越した2人のソリストを迎える可能性を想定し、ラテン・アメリカの作曲家に全面的に捧げる魅力的なプログラム

- |                |   |
|----------------|---|
| ・ P. イトゥラルデ    | Suite Hellenique (P. ザンニーニ編曲)<br>Kalamatianos, Funky, Valse, Kritis                                       |
| ・ E. ジスモンチ     | Palhaço, Karate (S. マルツィ編曲)   |
| ・ G. ソッリーマ     | Spasimo fragments   |
| ・ A. C. ジョビン   | Suite brazilian stories (V. シヴィロッティ編曲)<br>Wave, Triste, Chege de saudade, One note samba, Waters of march |
| ・ H. ヴィラ＝ロボス   | Pequena suite   |
| ・ D. ボナヴェントゥーラ | Tango   |
| ・ J. ジロット      | El Cacerolazo   |
| ・ A. ピアソラ      | Oblivion-Libertango   |
| ・ F. リヒター      | Canto Negro   |
| ・ E. ナザレス      | Cavaquinho (S. マルツィ編曲)  |

**企 画 2**

**CHEGA DE SAUDADES - A. C. ジョビンの捧げるプログラム**

**マリオ・マルツィ**

**サクソフォン・指揮**

**弦楽オーケストラ**

**タブラ**

**V. シヴィロッティによって、サクソス・ソリストとオーケストラ、タブラのためにアレンジされたA. C. ジョビンの作品を**

独自の伝統音楽から出発しながらも、早くにユニバーサルな音楽言語を創ることが出来た“音楽の詩”、ブラジルの偉大な作曲家、A. C. ジョビンの最も素晴らしいいくつかのページを含む、魅力的な音楽の旅…東洋の色合いと南米の伝統とを程よくミックスし、純粹で、本物の“詩”であるこれらのページに眩い光を与える新しい音色でもって…

## マリオ・マルツィ (Mario Marzi)

イタリア・ペーザロのロッシーニ音楽院 (Conservatorio Statale di Musica “G. Rossini”) でディプロマを取得、その後、フランス・ボルドーの音楽院のジャン・マリー・ロンデックス (Jean-Marie Londeix) の下で、研鑽を続け、4つの国際コンクールと9つのイタリア国内のコンクールで優勝を重ねる。

ソリスト及びオーケストラとの活動としては、とりわけ、“ミラノ・スカラ座管弦楽団” (Teatro alla Scala) と同団を母体とするオーケストラの“スカラ・フィルハーモニー管弦楽団” (Orchestra Filarmonica della Scala) との共演が長く、20年以上に及んでおり、特に、リッカルド・ムーティとはソリストとして何度も共演している。また、ズビン・メータには、“フィレンツェ五月祭管弦楽団” (Maggio Musicale Fiorentino) のツアーにソリストとして招かれている。

そのほか、“トリノ RAI 交響楽団” (Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai di Trino)、“サンタ・チェリリア国立音楽院管弦楽団” (Orchestra dell’Academia Nazionale di Santa Cecilia)、“ヴェネツィア・フェニーチェ座管弦楽団” (Teatro alla Fenice di Venezia)、“スイス・イタリアーナ管弦楽団” (Orchestra della Svizzera Italiana) をはじめとするイタリア国内外の数々のオーケストラと、ソリストとして共演を続けている。

世界的に名高い指揮者との共演機会も多く、C. M. ジュリーニ、G. プレートル、L. マゼール、L. ベリオ、S. ビシュコフ、C. アバド、W. サヴァリッシュ、チョン・ミョンフン、G. ドウダメル、R. シャイー、D. ハーディング、A. パッパノなどと共演を重ねており、ニューヨークのカーネギーホール、ウィーンの楽友協会ホールをはじめ、世界屈指のホールでの演奏機会も多く、また、日本においても、サントリーホール (東京) やシンフォニーホール (大阪) などでも演奏している。

マルツィは、20世紀の音楽作品にも熱心に取組んでおり、当代サクソフォンにとって意義深い幾つかの作品が彼のために献呈されている。また、室内楽の分野における活動も精力的に取り組んでおり、特に、ミラノのスカラ座管弦楽団のソリストを中心に結成された“スカラ室内管弦楽団” (Ensemble Strumentale Scaligero) や、自身をリーダーとするトリオ“タンゴ・イ・アルゴ・マス” (Tango y algo mas) では、何度も来日し、好評を博している。そのほか、アコーディオンのシモーネ・ザンキーニ (Simone Zanchini) とのデュオやピアノのパオロ・ザンニーニ (Paolo Zannini) とのデュオなど、長年多くのグループで活動を続け、クラシックはもとより、現代音楽やタンゴ、ジャズなどの作品の演奏でも高い評価を受けている。

国内外の国際音楽フェスティバルやサクソフォンフェスティバルにも参加を続けており、そうした中で、国境を越えた友情で結ばれたサクソフォン・カルテット“ブロス・カルテット” (Bros Quartet) を、北アイルランド出身のジェラルド・マクリスタル (Gerard McChrystal)、スペイン出身のアントニオ・フェリペ・ベリハール (Antonio Felipe Belijar)、ポルトガル出身のジョアン・ペドロ・シルヴァ (João Pedro Silva) と結成したほか、ギターのリウ・タンパリーニ (Giulio Tampalini) とのデュオや、クラリネット/サクソのアキレ・スッチ (Achille Succi) とのデュオ、さらには、作曲家で、マルチ演奏家のステファノ・イアンネ (Stefano Ianne) とパーカッション奏者のステファノ・カルヴァーノ (Stefano Galvano) とのトリオ“イアマカ” (IaMaCa) など、新たなグループでも活発な活動を展開し、コンサートのみならず、録音活動も行っている。

彼のCDは、BMG、Sony Classical、EMI、Stradivariusなどのレーベルから発売されている。クラシック・サクソスのスタイルのCDとしては、ソリストとして、グラスノフのサクソフォン協奏曲や、ミヨーのスカラムーシュなどの作品を取り上げたもの（ARTS）、また、ピアノとのデュオでもフランスの作曲家の作品を取り上げたもの（Stradivarius）などがある。現代音楽の分野では、ピアノとのデュオで、イタリアの作曲家の作品を取り上げたもの（Stradivarius）や、ピアノとアコーディオンとのトリオでバルトークや東欧の民族舞曲、リゲティなどを取り上げたもの（LIMEN MUSIC）などがある。演奏活動同様に、ラテンやジャズなどクラシックの枠にとられない作品の録音も数多く行っており、ピアソラの“リベルタンゴ”など来日公演でも度々演奏され、好評を博している作品を録音したもの（Stradivariusなど）をはじめ、即興で彩るバッハや、ミニマム・ミュージックなど、異なるグループ、スタイルでさまざまな録音を楽しむことができる。

奏者としての活動のほかに彼は、後進の指導にも熱心で、イタリア・ミラノの“G. ヴェルディ音楽院”（Conservatorio Giuseppe Verdi di Milano）で教鞭を執っているのはじめ、イタリア各地のみならず、オポルト（ポルトガル）、アムステルダム（オランダ）、フランクフルト（ドイツ）、デンバー（アメリカ）、北京（中国）など、世界各地でも毎年マスタークラスを開催しているほか、“アドルフ・サクソ国際コンクール”をはじめとする国際的なサクソフォンコンクールにおいて審査員を務める機会も多い。

また、イタリアのゼッキーニ出版社から、サクソフォンの歴史から技術までを網羅した専門書“il saxofono”（伊語）を、2009年に出版している。